

* 研究目的

関西には関西国際空港・伊丹空港・神戸空港の3空港があり、従前より規制を通じて機能分担がなされてきた。この機能分担は3空港の運営主体が別々であった時代に導入されたものであり、利用が振るわなかった関西国際空港を保護するという側面もある(神戸空港の発着時間及び回数の規制等)。ところが、2018年からは関西エアポートがこれら3空港を一体運営するようになる。したがって、今後は3空港が協調して全体として需要を拡大させる必要がある。したがって、今後は3空港が協調して全体としての需要を拡大させる必要がある。この全体最適を達成するために必要な機能分担がどのようなものであるかを解明するのが本研究の目的である。

また現在、高速道路のミッシングリンク解消や、なにわ筋線などの鉄道整備が計画されている。これらが実現すれば移動時間短縮により、空港間を移動した乗り継ぎが便利になる。国内需要が低迷する時代においては乗継需要を取り組むことが成長のカギとなるが、本研究を通じて空港間の連携を活かした乗継客の獲得策を提示することを目指す。

* 研究チームメンバーと研究課題

森本裕	経済学部・准教授	空港選択モデルの構築
小出武	知能情報学部・教授	数値シミュレーションのプログラミング作成
杉浦裕子	文学部・英語英米文学科・准教授	外国人を対象とするアンケート調査票の作成および、面接調査の実施